

編集後記

(57巻 第4号 2011年4月)

先月号ではニュージーランドでおこった地震について触れたが、今月号で我が国を襲った未曾有の東日本大震災のことを書くことになろうとは予想だにできなかった。当日は三重県津市で泌尿器科分子細胞研究会が開催されており、市内のホテルの7階で休んでいる時に地震はおこった。かなり長く続く大きな揺れだったので、どこかで大きな地震でもと思いテレビをつけたら大騒ぎとなっていた。テレビ画像で実際の津浪をリアルタイムで見ることが予想しなかったが、テレビに映る津浪でさえ、その勢いのすさまじさに圧倒された。さぞ現地のかたは恐ろしい思いをされたのだろう。3万人に近い死者、行方不明者の数とその恐ろしさを物語っている。ご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われたかたに心からお見舞い申し上げたい。

それにしても喫緊の大問題は福島原発である。特に、米国やフランスなど原子力発電への依存度の高い国では、対岸の火事として済ましてはいられないだろう。原子力発電の是非はさておいて、今は全世界の叡智を集めてこの難関を乗り越えてほしい。米国での同時多発テロが9.11なら、今回の大災害は3.11。9.11同様、われわれ日本人はこの大惨事を克服し、そして教訓を今後を活かすことも重要な課題であろう。

(小川 修)